

平成 20 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

| 区分 | 指導 | 題名 | 四季成り性イチゴの主要品種の特性 | | | |
|--|----------|----|------------------|-------------|--|--|
| <p>[要約] 主要な四季成り性イチゴ5品種において、「なつあかり」「テコルージュ」「イチイス-138」「ペチカ」は株間20cm、「サマ-ルビ-」では株間30cmとすることで、単位面積当たりの上物収量が向上する。また、「なつあかり」は糖度が高く、生食用途にも適し、「テコルージュ」「イチイス-138」は果実硬度が高く、業務用途への適応性が高い。「サマ-ルビ-」「ペチカ」は大果性で上物収量が多い。</p> | | | | | | |
| キーワード | 四季成り性イチゴ | 品種 | 栽植密度 | 技術部 南部園芸研究室 | | |

1 背景とねらい

近年、四季成り性品種を中心としたイチゴの夏秋どり作型に対する関心が高まっており、県内でも先進的に導入している事例がある。しかし、四季成り性品種の生育特性や栽培管理方法等については十分な知見が得られていない。

そこで、主要品種の適正な栽植密度や果実品質などの特性を明らかにする。

2 成果の内容

(1) 品種の特性

| 品種名 | 収量性 | 障害果 | 硬度 | 糖度 | 四季成り性 | 適正株間 | 育成元 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-------|------|------------|
| なつあかり | やや優 | やや少 | やや硬 | 優 | やや強 | 20cm | (独)東北農業 |
| テコルージュ | 良 | 少 | 硬 | 良 | 強 | 20cm | 研究センター |
| イチイス-138 | やや優 | やや少 | 硬 | 良 | 強 | 20cm | (株)北海三共 |
| サマ-ルビ- | 優 | 少 | やや軟 | 良 | やや強 | 30cm | (株)ミカモフレック |
| ペチカ | 優 | やや少 | やや軟 | やや優 | 強 | 20cm | (株)ホーブ |

*糖度は60~90%着色状態のBrix値より判断

(2) 「サマ-ルビ-」、「ペチカ」は13g以上の果実が多く、大果性である(図1)。

(3) 株当たり上物収量は「なつあかり」で株間25cm、その他は30cmで最も多いが、a当たり上物収量は「サマ-ルビ-」が株間30cm、その他は20cmで多くなる(表1)。

(4) 「なつあかり」「サマ-ルビ-」は果実の着色が50%を超えると軟化しやすくなることから、気温の高い時期は50~60%の着色程度を目安に収穫する(図3)。

(5) 「なつあかり」、「イチイス-138」は着色の進行と共に糖度が高まるが、「テコルージュ」、「サマ-ルビ-」では完全着色状態で糖度が高まる(図4)。

3 成果活用上の留意事項

(1) 「なつあかり」、「テコルージュ」は前年8月下旬に9cmポリポットに採苗した越冬苗を用い、「イチイス-138」、「サマ-ルビ-」、「ペチカ」は冷蔵苗を9cmポリポットで1ヶ月間養成したものを2007年5月2日、2008年4月17日に定植した。

(2) 芽数は7月まで2~3芽に整理し、それ以降は放任とした。6月上旬まで出蕾してくる花房は適宜除去し、以降は放任管理とした。

(3) 施肥はOKF-1の1液方式による点滴かん水施肥(養液濃度EC0.4~1.0)とした。栽培槽は不織布によるハネック方式に、畑土初殻混合培土を株当たり3L充填した。

(4) 民間育成品種の「イチイス-138」、「サマ-ルビ-」、「ペチカ」は栽培契約が必要であることから、事前に契約内容を確認する。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

夏秋どりイチゴ生産者、栽培予定者、指導担当者

(2) 期待する活用効果

品種選定の参考資料として活用される

5 当該事項に係る試験研究課題

沿岸地域におけるいちご四季成り性品種の安定生産技術の確立(H19~21)

D-2 1000 夏秋どり作型に適した四季成り性品種の選定(H19~20)

6 研究担当者

藤尾 拓也、佐藤 弘

7 参考資料・文献

夏秋どりイチゴ栽培マニュアル(改訂版)((独)東北農業研究センター)

いちご「イチイス-138」(H13 北海道農試研究成果)

8 試験成績の概要 (具体的なデータ)

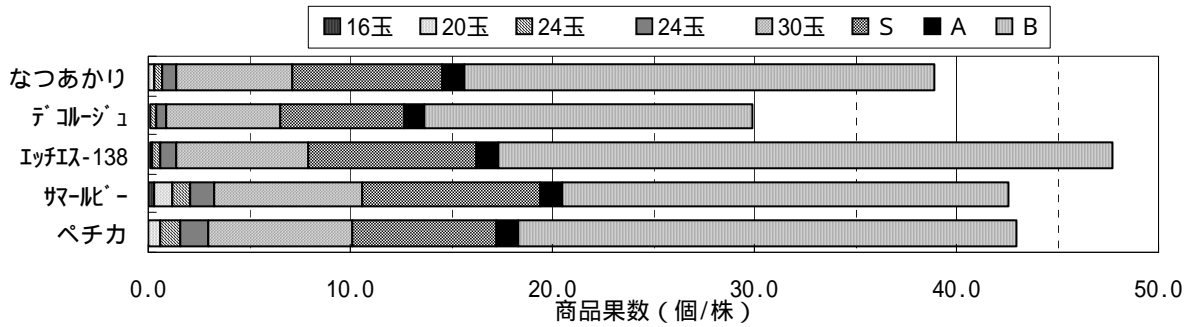


図1 品種毎の規格別商品果数(2007~2008年)

*¹ 16玉:23g以上,20玉:23~18g,24玉 :18~15g,24玉 :15~13g,30玉:13~9g,S:9~7g

A:15g以上の形状の劣る果実,B:7~4gの正常果及び15~7gの形状の劣る果実

*² 収穫期間:6月下旬~11月下旬

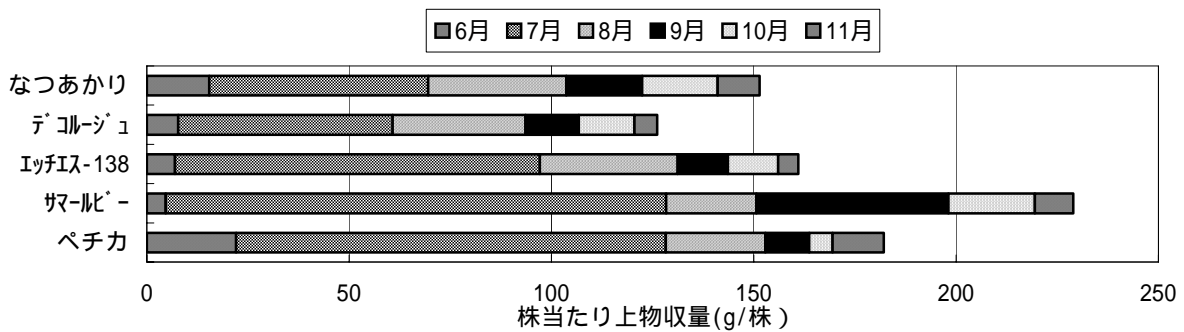


図2 品種毎の時期別上物収量の推移(2007~2008年)

* 上物収量:7g以上の正常果と15g以上の形状の劣る果実重の合計

表1 栽植密度の違いが単位面積当たり収量に及ぼす影響(2007~2008年)

| 品種 | 株当たり上物収量(g/株) | | | a当たり上物収量(kg/a) | | |
|----------|---------------|------------|------------|----------------|------|------------|
| | 20cm | 25cm | 30cm | 20cm | 25cm | 30cm |
| なつあかり | 154 | 184 | 168 | 169 | 163 | 124 |
| テコルージュ | 132 | 138 | 177 | 145 | 123 | 131 |
| イチエス-138 | 148 | 170 | 202 | 162 | 151 | 149 |
| サマルビ | 174 | 228 | 285 | 192 | 202 | 211 |
| ペチカ | 194 | 207 | 269 | 214 | 184 | 199 |

* 栽植密度:株間20cm:1100株/a 株間25cm:890株/a 株間30cm:740株/a、千鳥2条植

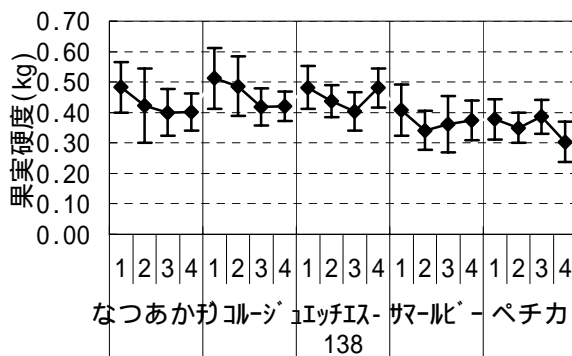


図3 着色程度と果実硬度(2007~2008年)

*着色程度(1:50~60% 2:60~80% 3:80~100% 4:100%)

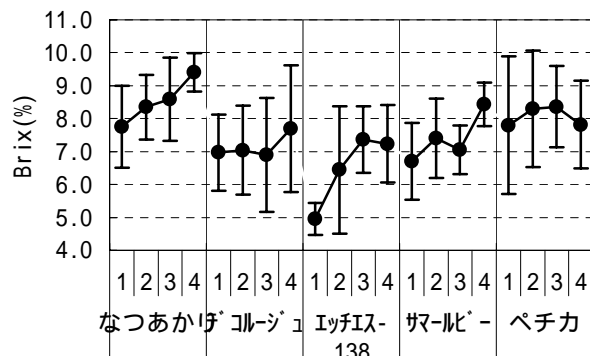


図4 着色程度とBrix値(2007~2008年)

*着色程度(1:50~60% 2:60~80% 3:80~100% 4:100%)